

境川かわまちづくりの活動内容と現状評価

Activities and Current Evaluation of Sakai River Town Planning

水循環・まちづくり・防災グループ 研 究 員 仁田原 汀
審 議 役 土屋 信行
水循環・まちづくり・防災グループ 主任研究員 阿 部 充

1. はじめに

千葉県浦安市のほぼ中央を流れる一級河川利根川水系境川は、旧江戸川から東京湾へと注ぐ延長約4.8km、流域面積約6.8km²の派川である。かつては漁師まちとして船が行き交うなど生活に密接し、賑わいをもたらしていた河川であった。現在も様々なかたちで多くの市民によって利用され親しまれている浦安市のシンボリック河川であるが、その水辺空間は十分に活かされていない状態であった。

そのような中で、平成30年度から境川修景整備方針検討として、境川の流域全体を対象に、個々の区域ごとの特徴に見合った魅力的な水辺環境の創出を検討してきた。その後、「境川かわまちづくり検討」に移行し、令和6年度に「境川かわまちづくり計画【長期構想】」及び「境川かわまちづくり（第1期）計画」

（以下「第1期計画」という）を策定し、令和6年8月8日に、第1期計画が国土交通省の「かわまちづくり」支援制度に登録された。

本稿では、令和6年4月から令和7年7月までの1年余りの活動内容について概説するとともに、現状の活動に関する評価分析を行い、今後の推進に向けた課題と方向性について考察する。

2. 活動内容の概説

2-1 推進体制の構築検討

境川かわまちづくりの推進にあたっては、市民団体の方々を中心に市役所が後方支援を担う「(仮称)境川かわまちを進める会」、河川管理者である千葉県、そして関係団体等との連携のもとで協議体制を整え、検討を進めてきた。

この中で、令和6年7月には、進める会メンバーを対象に公募を行い、有志の市民と市職員（事務局）により構成される「マネジメント会議」を設立した。マネジメント会議は、かわまちづくりを戦略的かつ継続的に推進するための中核的な役割を担い、2週間に1

度の頻度で開催してきた。会議では、社会実験の企画立案や運営ルールの整備、情報発信の方針などについて、実践を踏まえた議論を進めてきた。

2-2 社会実験の実施

境川かわまちづくりにおいては、基本方針を基に計画期間の開始以前から、社会実装を見据え社会実験を実施してきた（表-1）。

表-1 基本方針と社会実験内容

基本方針		社会実験内容
水・自然環境	かつての境川の自然環境と生物の再生！（楽しみ、学びの場へ）	・水質浄化社会実験
歴史・文化	浦安境川の歴史・文化の発信（みんなに愛される境川へ）	・観光遊覧事業化社会実験
水辺・水面利用	いつも人々が楽しみ、集い、交流する賑わいづくり（体験、イベント、商業の拠点に）	・水上アクティビティ事業化社会実験 ・オープンカフェ・マルシェ社会実験

計画登録後も継続的に社会実験を実施しており、令和7年7月までに合計13回の社会実験を行った（表-2）。

これらの社会実験は、河川空間を利活用するもの（キッチンカーの出店、音楽イベントなど）、川や自然環境を体感する体験型企画（SUP体験、水辺のくつろぎ空間の創出など）、河川美化活動（清掃イベント）、沿川の学びを深めるプログラム（歴史まち歩きツアー）など、多様なテーマで実施した。

各実験では、今後の運営体制や利活用ルールの検討、さらには取組みの有効性や事業性向上の方策を探ることを目的に、参加者へのアンケート調査を実施するとともに、運営関係者には実施報告書の提出を依頼した。

例えば、令和7年7月に実施した「親水テラスでのマルシェイベント」では、来場者の約8割が「また来たい」「日常的に開催してほしい」と回答するなど、空間の利活用に対する高い満足度が得られた。一方で、「日陰が不足していた」「座って休む場所が欲しい」といった改善要望も寄せられ、今後の空間整備や

案内の工夫につながる具体的な課題も明らかとなった。

表 2 社会実験実施実績（令和 6～7 年度）

回	イベント名	実施日程
1	第26回浦安市民まつり	令和6年4月27日,28日
2	境川で天の川・水辺で乾杯	令和6年7月6日,7日
3	親子はじめてのハゼ釣り教室	令和6年7月28日
4	第22回境川クリーンアップ	令和6年9月29日
5	MIZUBEミュージック	令和6年9月29日
6	第11回Eポート千葉県大会in浦安	令和6年10月27日
7	浦安景観まちづくり先進事例見学会	令和6年11月5日
8	第23回境川クリーンアップ	令和6年11月17日
9	水質浄化社会実験（予備実験）	令和7年2月10日
10	浦安市文化財めぐり	令和7年3月15日
11	かわまちづくり登録記念イベント	令和7年3月29日,30日
12	境川みんなのかわまち春	令和7年4月26日,27日
13	境川で天の川・水辺で乾杯	令和7年7月6日,7日

3. 活動に関する評価分析

3-1 評価方法

評価は、主に二つの視点から実施した。まず、マネジメント会議の参加メンバーによる所感や意見、ならびに社会実験における市民からの自由記述意見をもとに、関係者や市民の意識変化・関係性の構築状況についての定性的評価を行った。

加えて、各種イベントの参加者数の推移及び来場者アンケートによる「境川かわまちづくり」の認知度に関する回答結果を用いて、活動の浸透状況を把握する定量的評価を実施した。

3-2 定性的評価

（1）マネジメント会議メンバー及び市民の方々の意見

マネジメント会議メンバー及び市民の方々の意見を以下に示す。なお、マネジメント会議メンバーの意見は会議を設立して1年が経過した令和7年7月時点の意見であり、市民の意見は令和7年7月実施の「境川で天の川・水辺で乾杯」時の来場者アンケートの意見である。

①マネジメント会議メンバーの主な意見

■評価できる点

- ・社会実験の実施を通じて、にぎわいの創出が図られた一年であった。
- ・中止判断も含め、各種イベントが協働のもとで成功裏に実施された。
- ・SNS（LINE）を利用したグループが立ち上げられ、情報共有・情報発信が円滑に行えるようになった。

- ・メンバー間の信頼関係が構築され、チームとしての基盤が強化された。

■改善すべき点

- ・SNS などを通じて「境川かわまち」という名称、ブランドの浸透を図り、認知度をさらに高めていきたい。
- ・1つの拠点にとどまらず、別地区の拠点整備に向け、新たな社会実験の企画・検討を進めたい。
- ・社会実験を踏まえたハード整備の検討が必要。

②市民の方々の主な意見

- ・子供が川で遊べるようにして欲しい。
- ・整備でどのように変わっていくのか楽しみ。境川が人が集まる憩いの場になるといい。
- ・かわまちづくりの活動に賛同します。何か手伝える事があれば、協力したい。
- ・昔ながらの風景も残して欲しい。

（2）定性的評価のまとめ

マネジメント会議メンバーからは、社会実験や企画会議を通じて関係者間の役割分担や協働の仕組みが徐々に定着し、運営体制の基盤が構築されつつあるとの意見が多く寄せられた。加えて、「主体的に動くきっかけとなった」「市民・行政・民間が対等に話し合える環境が整いつつある」といった所感から、かわまちづくりが地域内の連携形成に寄与していることがうかがえる。

一方、市民やイベント参加者からは、「境川が人が集まる憩いの場になるといい」といった水辺空間への愛着が見られた。また、「かわまちづくりに関わりたい、手伝いたい」など、自発的な関与を示す声も一定数確認され、市民主体の活動への可能性が芽生えつつあることが示唆された。

以上のことから、かわまちづくりの取組みは、関係者、市民双方において意識の変化と関係構築を促進しており、今後の事業推進に向けた社会的基盤の形成に寄与していると評価できる。

3-3 定量的評価

（1）イベント参加者数及びかわまちづくり認知度

イベントの参加者数や市民の境川かわまちづくりの認知度により、市民の関心や浸透度を把握し評価した。イベント参加者数は、かわまちづくり計画策定前から実施している「水辺で乾杯」の結果を用いた。また、かわまちづくり認知度は、令和6年度から7年度にかけて実施した4回のイベントにおけるアンケート結果を用いた。以下に、それぞれの概要を示す。

①イベント「水辺で乾杯」の参加者数

平成28年度から令和7年度の「水辺で乾杯」の参加者数を図-1に示す。

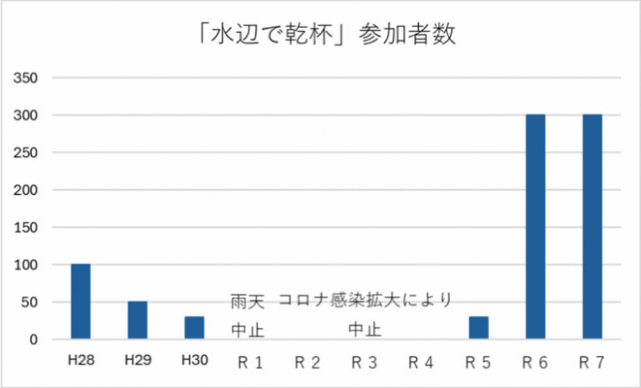


図-1 「水辺で乾杯」参加者数

「水辺で乾杯」は、平成28年度より毎年開催されてきた。初年度は市民の参加も見られたが、徐々に参加者数は減少し、令和5年度は関係者のみで参加者数が約30名の小規模なイベントとなった。令和6年度のかわまちづくり計画登録を契機として、「境川で天の川」というイベントで内容を充実させるとともに市民への広報・周知を強化した結果、令和7年度には延べ300名以上が参加する規模に拡大した。



写真-1 令和5年7月7日の様子



写真-2 令和7年7月7日の様子

②かわまちづくり認知度

表-3の4回のイベントにおいて、「境川かわまちづくりの認知度」について来場者アンケートを実施した。結果を図-2に示す。

表-3 調査日時

回	イベント名	実施日程	実施場所	実施方法	回答件数
1	第26回浦安市民まつり	令和6年4月27日,28日	浦安市役所前・東水門付近	・紙アンケート(聞き取り)	68件
2	境川で天の川	令和6年7月6日,7日	境川親水テラス	・紙アンケート(聞き取り)	74件
3	境川みんなのかわまち春	令和7年4月26日,27日	浦安市役所前・東水門付近	・紙アンケート・WEB併用(QRコード設置)	91件
4	境川かわまちづくり2025 境川で天の川	令和7年7月6日,7日	境川親水テラス	・WEB(QRコード設置)	82件

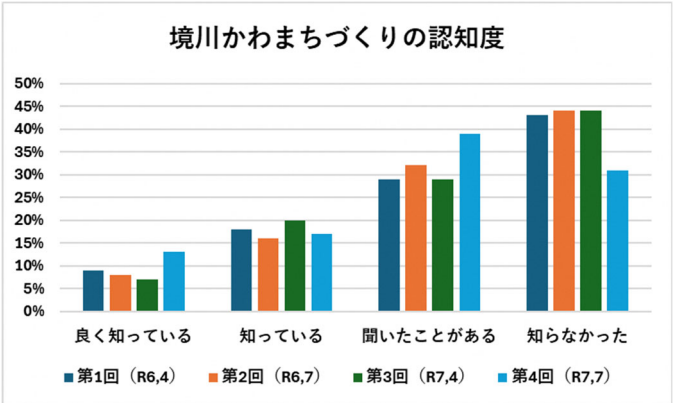


図-2 境川かわまちづくりの認知度

「知らなかった」と回答した割合は、第1回（令和6年度）では約45%であったが、第4回（令和7年度）には約30%まで減少した。一方で、「知っている」と回答した層は横ばいだが、「よく知っている」と回答した層は約10%から約15%、「聞いたことがある」と回答した層は約30%から約40%へと微増した。

(2) 定量評価のまとめ

イベント参加者数の増加は、かわまちづくりに対する市民の関心が高まり、活動がより地域に開かれたものとして認識されるようになったことを示している。

かわまちづくり認知度の結果から、広報活動や実施イベントを通じて、市民の認知度が着実に向上していることを示しており、単なる参加者数の増加にとどまらず、活動内容や趣旨が市民に理解・浸透してきていることがうかがえる。

4. 今後の課題

以上のことから、境川かわまちづくりは、支援制度への登録を起点として市民との接点が拡大し、市民の関心を呼び起こし、地域内での認知を着実に高めるプロセスを経ているといえる。

こうした成果の一方で、継続的かつ発展的に活動を推進していくためには、以下の課題に対応していく必要がある。

(1) 日常的な水辺利活用の仕組みづくり

現在はイベントを中心とした利活用が中心であり、日常的に市民が境川と関わる機会は限定的である。そのため、日常の散歩や通学、休憩といった生活の中で自然と川沿いに立ち寄れるよう、空間整備を進めるとともに、季節の自然観察や清掃活動など、日常的に参加できる小規模なプログラムを継続的に展開していくことが有効と考えられる。こうした日常的な関わりの積み重ねにより、市民の方々の川への愛着や関与意識が高まり、結果としてかわまちづくり活動の持続性や地域への定着が期待される。

(2) 市民主体の運営体制の強化

マネジメント会議をはじめとした体制づくりは着実に進展しており、特に市民主体による運営体制の構築を目指している点は、全国的にも特徴的な取り組みといえる。しかしながら、これらの取り組みはまだ初期段階にあり、運営体制としての基盤づくりが重要な課題となっている。今後は、役割分担の明確化や継続的な参画を促す仕組みづくり、行政との連携強化などを通じて、持続可能な協働による運営体制の確立が求められる。

(3) 認知度と共感のさらなる向上

アンケート結果から一定の認知が進んでいることが確認されたものの、「知らなかった」という層も依然として3割以上存在しており、活動の意義や目指す将来像について、より分かりやすく発信していく必要がある。

5. おわりに

本稿では、境川かわまちづくりが国土交通省の「かわまちづくり支援制度」登録前後から約1年間の取り組みを対象に、その活動内容と市民の方々の反応を定性的・定量的に評価し、今後の課題と方向性について考察した。

活動の継続を通じて、関係者間の協働体制や市民参加の基盤が形成されつつあり、イベント参加者数の増加や認知度の向上といった成果から、かわまちづくりが地域に着実に浸透し始めている様子が確認できた。一方で、参加層の限定性や日常的な水辺活用の仕組みの未整備、運営体制の継続性といった課題が浮き彫りになっている。

今後は、こうした課題に対応しながら、境川かわまちづくりが持続的に発展し、地域の誇りとなるような水辺空間として次世代へ継承されていくことが期待される。

最後に、本研究を進めるにあたり浦安市道路整備課の皆様、関係団体の皆様には多大なるご協力とご指導を頂きました。ここに厚く御礼申し上げます。

<参考文献>

- 1) 八町裕浩ら：境川かわまちづくりに向けた検討，リバーフロント研究所報告第34号，2023
- 2) 阿部充ら：境川かわまちづくり計画の検討，リバーフロント研究所報告第35号，2024
- 3) 広瀬陽：境川かわまちづくり計画，河川No. 940，2024